



年 組 名前

# 道新ワークシート

## 洋上風力室蘭に製造拠点

### 大成建設、24年度にも



大成建設が洋上風力発電用の部品製造拠点として整備する予定地（手前） 17日、室蘭市祝津埠頭

【室蘭】大手ゼネコンの

大成建設（東京）は17日、浮体式洋上風力発電部品の開発・製造拠点を2024年度以降、室蘭港祝津埠頭に整備する計画を明らかにした。新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の基金を使い、事業規模は最大100億円を見込む。同社にとって洋上風力発電分野への本格参入となる。

製造するのは海上に浮かべて風車を載せる土台（浮体）で、同社が船体向けなどで開発を進めている海水に浮くコンクリート製。鉄鋼などの製造業が集まり大型船が航行できる室蘭港の立地を生かし、東北・北海道で相次ぎ建設が計画されている洋上風力発電事業の需要の取り込みを目指す。23年度まで低コスト化の技術開発を進め、24年度以降に製造拠点をつくる。同社は17日、室蘭市と技術開発などの包括連携協定を締結。室蘭市役所で同日記者

## 風車土台 最大100億円規模

会見した田中茂義副社長は「北海道と東北地方は（洋上風力発電の）適地が多い。室蘭港を基地にできることは大きな魅力」と話した。

脱炭素社会の実現に向けたエネルギー源として有望視される洋上風力発電には、風車を遠浅の海底に固定する「着床式」と、風車を浮体に載せて深い海域に設ける「浮体式」がある。洋上風力発電は福岡、長崎、千葉の3県で試験運用され、道内でも石狩湾、檜山沖などで建設計画がある。

室蘭港では、五洋建設（東京）が来年10月の稼働を目指すし、洋上風力発電の風車などの大型部品を船で運ぶための架台の新工場を崎守埠頭付近に建設する計画を公表している。資源エネルギー庁によると、大手による部品製造拠点は道内にはなく、国内では北九州市や秋田県などが集積地化を進めている。大手が相次ぎ室蘭に拠点を置くことについて、青山剛市長は「産業集積につながる大きな一歩」と期待感を示した。

（久保耕平、河田俊樹）

2021年11月18日（木）朝刊 全道版 1ページ（記事は再編集しています）

- ①浮体式洋上風力発電の製造拠点到室蘭港が選ばれた理由は何ですか。
- ②脱炭素社会の実現に向けたエネルギー源として、他にどのようなものがありますか。また、そのエネルギー源の良さは何でしょうか。